

第6学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「物語を読んで、人物の生き方について考えよう」 教材名「海のいのち」

2 単元の目標

比喩や反復などの表現の工夫に気付き、印象に残る言葉の働きを確かめられる。人物の生き方について文章を読んで自分の考えをまとめ、意見を共有して考えを広げられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比喩や反復などの表現の工夫に気付き、印象に残る言葉の働きを確かめている。（〔知識及び技能〕(1)ク）	①「読むこと」において、人物の生き方について文章を読んで自分の考えをまとめ、意見を共有して考えを広げている。（C(1)オ・C(1)カ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

人物の生き方について、印象に残った表現と出来事を関係付けて考え、意見を共有する。人物への賛否だけで終わらず、言葉の表し方が読み手の考えにどう関わるかも確かめる。学習指導要領のC(1)オ・C(1)カを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)クを、言語活動の中で確かめる。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

出来事と印象に残った表現を対応させ、そこからどんな人物の姿を考えたか記す。交流では根拠が違えば意見を取り上げ、同意しなくても新たに確かめた点を残す。おおむね満足できる状況は、人物の生き方について文章を読んで自分の考えをまとめ、意見を共有して考えを広げているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全9時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○全文を読み、生き方への初めの考えを記録する。	学習状況を見て支援する。
第2次	2～3	○人物同士の関わりと行動を場面ごとに確かめる。	知①（語句や内容の整理）
	4～5	○最後の行動と前の場面を結び付け、印象に残る表現を考える。	学習状況を見て支援する。
	6 （本 時）	○出来事と表現を根拠に、生き方への考えを伝え合う。	思①（発言・学習記録）
	7	○交流で着目した表現を読み直し、意見文を書く。	学習状況を見て支援する。
	8	○意見文を読み合い、根拠の関係が伝わるか確かめる。	学習状況を見て支援する。
第3次	9	○初めの意見との違いから、考えが広がった点を振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



6 本時の指導 (6/9)

(1) 本時の目標

人物の生き方について文章を読んで自分の考えをまとめ、意見を共有して考えを広げられる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「この人物の生き方について考えるとき、どの出来事と表現を大事にしましたか。友達の考えを聞いて見方はどう広がりましたか」 【めあて】人物の生き方について、印象に残った表現と出来事を関係付けて考え、意見を共有する。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ行動でも、周りの描写があると感じ方が変わる。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「この人物の生き方について考えるとき、どの出来事と表現を大事にしましたか。友達の考えを聞いて見方はどう広がりましたか」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ行動でも、周りの描写があると感じ方が変わる。 ・前の場面の言葉が最後の行動と関係している。 ・友達が大事にした表現を読み直したい。	出来事と印象に残った表現を対応させ、そこからどんな人物の姿を考えたか記す。交流では根拠が違う意見を取り上げ、同意しなくても新たに確かめた点を残す。 想定する難しさ：主題の言葉だけを答える。本文の表現を離れて理想の生き方を話す。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 人物の生き方について文章を読んで自分の考えをまとめ、意見を共有して考えを広げている。(発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・友達が大事にした表現を読み直したい。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「この人物の生き方について考えるとき、どの出来事と表現を大事にしましたか。友達の考えを聞いて見方はどう広がりましたか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

